

令和5年度用高等学校教科書「生物／生物704」訂正のお願い

常日頃は弊社書籍をお使いいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、現在ご指導いただいております標記教科書におきまして、下記の訂正を行いました。誠に恐れ入りますが、この訂正に関しまして、生徒の皆様にご周知いただきますようお願い申し上げます。

なお、訂正の内容は弊社ウェブサイト内 (<https://www.chart.co.jp/top/teisei/>) にも掲載いたします。また、この訂正内容は、令和6年度供給の教科書では修正済みでございます。

教科用図書検定規則に基づき訂正をお知らせするとともに、ご迷惑をおかけいたしますこと、書面をもちまして、深くお詫び申し上げます。

訂正箇所		原文	訂正文
ページ	行		
前見返し ②	下左 写真		
11	10	二酸化炭素(CO ₂)やメタン(CH ₄)などの <u>無機物</u> に、雷や紫外線、熱などのエネルギー	二酸化炭素(CO ₂)やメタン(CH ₄)などの 物質に、雷や紫外線、熱などのエネルギー
102	3	酵素がはたらく反応条件について理解する。	酵素がはたらく反応条件について理解する。
431	右段 22	2. 実験2の標識していないチミジンを含む培地での培養時間を <u>2分</u> から <u>10分</u> に変えて培養する。その結果、(b)で見られたものよりも、長いDNA断片でチミジンの標識が多く検出されれば、仮説が支持されたことになる。	2. 実験2の標識していないチミジンを含む培地での培養時間を、2分よりも十分に長い時間に変えて培養する。その結果、(b)で見られたものよりも、長いDNA断片でチミジンの標識が多く検出されれば、仮説が支持されたことになる。
437	左段 19	自家不和 <u>合成</u>	自家不和 <u>合性</u>

訂正箇所					
ページ	行				
159	7	原文	誤ったヌクレオチドを取り除き、正しいヌクレオチドをつなぎ直すことができる。このよう <u>なしくみ</u> によって、DNA複製のミスは、 <u>10¹⁰塩基対につき1個</u> という低い頻度でしか起こらない。		
		訂正文	誤ったヌクレオチドを取り除き、正しいヌクレオチドをつなぎ直すことができる。このよう <u>なしくみ</u> などによって、DNA複製のミスは、最終的に10 ¹⁰ 塩基対につき1個という低い頻度でしか起こらない。		
348	32	原文	<u>マラリア病原虫</u> ，宿主に卵を産みつける寄生バエなどがいる。		
		訂正文	マラリア原虫，宿主に卵を産みつける寄生バエなどがいる。		
425	右段 21 － 22	原文	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding: 5px;"> <input type="checkbox"/> <u>アリー効果</u> <small>こうか</small> </td> <td style="padding: 5px;"> 個体群密度が低くなると、交配の機会が減少したり天敵に襲われやすくなったりすることで、個体数の減少がさらに促進されること。 </td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/> <u>アリー効果</u> <small>こうか</small>	個体群密度が低くなると、交配の機会が減少したり天敵に襲われやすくなったりすることで、個体数の減少がさらに促進されること。
		<input type="checkbox"/> <u>アリー効果</u> <small>こうか</small>	個体群密度が低くなると、交配の機会が減少したり天敵に襲われやすくなったりすることで、個体数の減少がさらに促進されること。		
訂正文	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding: 5px;"> <input type="checkbox"/> <u>アリー効果</u> <small>こうか</small> </td> <td style="padding: 5px;"> 通常、個体群密度が高い場合には密度効果は負にはたらし、個体数の増加が抑制される。しかし、それよりも個体群密度が低い場合には、密度効果が個体数の増減に対して正にはたらくことが知られている。このとき、個体群密度が高いほど個体数の増加が促進され、低いほど個体数の減少が促進される。このような現象をアリー効果という。 </td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/> <u>アリー効果</u> <small>こうか</small>	通常、個体群密度が高い場合には密度効果は負にはたらし、個体数の増加が抑制される。しかし、それよりも個体群密度が低い場合には、密度効果が個体数の増減に対して正にはたらくことが知られている。このとき、個体群密度が高いほど個体数の増加が促進され、低いほど個体数の減少が促進される。このような現象をアリー効果という。		
<input type="checkbox"/> <u>アリー効果</u> <small>こうか</small>	通常、個体群密度が高い場合には密度効果は負にはたらし、個体数の増加が抑制される。しかし、それよりも個体群密度が低い場合には、密度効果が個体数の増減に対して正にはたらくことが知られている。このとき、個体群密度が高いほど個体数の増加が促進され、低いほど個体数の減少が促進される。このような現象をアリー効果という。				